

産肉能力検定で選抜した優良種雄牛「第十光丸」

農業研究センター 畜産研究所 生産技術開発部

研究のねらい

肉用牛の改良を促進し、生産物の品質向上と斉一化を図るには、遺伝能力の優れた種雄牛を広域的に供用することが最も効果的である。

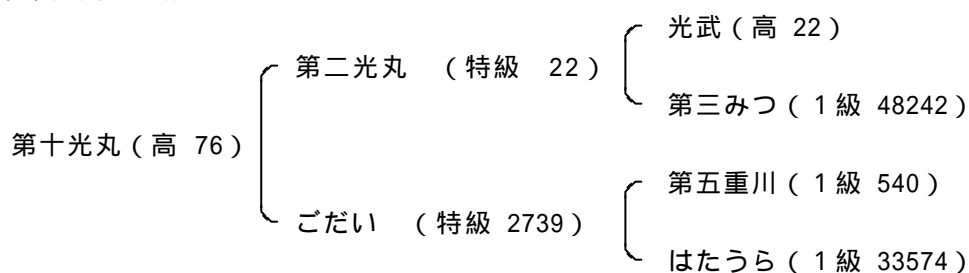
このため、育種的価値の高い優良雌牛と優良種雄牛との交配によって得られた候補種雄牛を産肉能力検定に供し、産肉能力の優れた種雄牛の選抜を行った。

研究の成果

発育並びに肉質が優れた種雄牛「第十光丸」を選抜した。

1. 選抜した種雄牛の概要

(1) 第十光丸の血統



(2) 生年月日 昭和 60 年 7 月 5 日生まれ

(3) 生産者 下益城郡小川町弦巻 藤坂 光秋

父親の第二光丸は、第五光浦系の中でも特に発育、肉質の遺伝能力が優れた種雄牛であり、母方祖父の第五重川も同様に、重玉系の中では発育、肉質共に優れた能力を有する種雄牛である。

2. 成績の概要

(1) 直接検定

第十光丸の直接検定成績は、365 日齢補正体重 482.9kg、1 日当たり増体量 1.93kg、1 kg 増体当たり T D N 量 4.02kg であった。

(2) 間接検定

第十光丸の産子を用いた間接検定成績は、終了時体重 683.7kg、1 日当たり増体重 1.13kg、ロース芯面積 44.7c m²、B M S 1.4 であった。(検定期間 329 日間、終了時月齢 20.8 ヶ月齢、調査頭数 9 頭)

(3) フィールド検定成績

第十光丸の産子のフィールド(民間肥育施設)における検定成績は、終了時体重 739.4kg、1 日当たり増体重 1.01kg、ロース芯面積 52.5c m²、B M S 1.8 であった(肥育期間 414.3 日間、終了時月齢 23.1 ヶ月齢、調査頭数 38 頭)。枝肉等級の比率は A-515.8%、A-455.3%、A(B)-323.7%、A-25.2% で、肉質等級 4 以上が 71.1%、3 以上が 94.8% であった。

表 1 直接検定成績(検定期間 昭和61年4月15日～昭和61年8月15日)

D G	365日齢 補正体重	1kg増体当たり T D N量	粗飼料 摂取率	体型 資質	総合判定
kg 1.93	kg 482.9	kg 4.02	% 26.2	84.4	96.0(A)

表 2 間接検定成績(検定期間 平成1年4月26日～平成2年3月21日)

開始体重	終了体重	D G	屠殺前 体 重	枝肉重量	ロース 芯面積	B M S	等 級
kg 312.8 ± 33.2	kg 683.7 ± 45.7	kg 1.13 ± 0.11	kg 644.8 ± 41.6	kg 418.0 ± 30.5	cm ² 44.7 ± 4.9	1.4 ± 0.6	B - 5 1頭 A - 4 4頭 A - 3 1頭 A - 2 3頭



写真 第十光丸